

2021 年度目標達成状況報告書（バイ・情報メディア研究科）

* 自己評価は「S・A・B・C」の4段階で「S：十分満たしている、A：満たしている、B：概ね満たしている、C：満たしていない」

No.	評価基準		
1	年度目標	質の高い大学院を目指した大学院担当教員資格査制度の設定、実行	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	教員の業績に基づいた大学院担当教員資格査制度を設定し、審査を実行した。審査により不合格となった教員のサポートを今後、どのように行うかが課題である。
		改善策	大学院担当教員資格査制度による評価を継続するとともに、再審査の実施を学内外に発信して、大学院の質の担保と、その高さをアピールしていきたい。一方、審査により不合格となった教員への対応が課題である。
No.	評価基準		
2	年度目標	英語による講義を増やすためのセミナーの実施	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	大学院の国際性向上を目的に、英語による講義を増やす。このための啓蒙活動として、教員向けセミナーを5回実施したが、参加人数が毎回10名弱と少なく、英語による講義数の増加には至らなかった。英語による講義実施の必然性が、あまり教員に周知されていないことが考えられる。
		改善策	今後もセミナーなどの啓蒙活動を継続して、英語による講義数を増やし、大学院の国際性を高めることにより、留学生の受け入れ数を増やしたい。
No.	評価基準		
3	年度目標	大学院での学生数を増やす	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	C
		理由	2021 年度修士課程入学者 96 名、2022 入学予定者数 91 名、2021 年度博士課程入学者数 6 名、2022 入学予定者数 3 名と減少した。また、留学生は 2021 年度修士課程入学者 29 名、2022 入学予定者数 24 名、2021 年度博士課程入学者数 1 名、2022 入学予定者数 3 名と全体で減少傾向となり、目標は達成されなかった。学内学部生の大学院進学への関心は高まらず、留学生もコロナ感染が広まったこともあり、その数は増えなかった。

		改善策	大学院での研究の質を高め、学部生に関心を持ってもらえるようにしたい。留学生に対しては、英語での講義を増やすなど、学修しやすい環境を整備していく。また、大学院 HP をもう少し簡潔にわかりやすくするとともに、英語による情報を充実させる。学生数の増加を背景に、大学院での質の高い教育、研究を目指す。
--	--	-----	---

【年度目標達成状況総括】

教員の業績に基づく大学院担当教員資格査制度を開始したことで、大学院の質の向上が期待される。教員業績の学外への発信については、信頼性の高さから、Scopusを導入したい。一方、大学院生数を増やすことはできなかった。今後の取り組みとして、研究の質の向上を図り、学部生へアピールしていきたい。また、留学生の誘致については、英語による講義を増やす事が重要であると考えている。留学生を集めることで、大学院の国際性が高まる効果が期待される。英語による講義を実施するための準備として、今後も教員向け英語セミナーを充実させていく。

【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）

年度目標 3 件に対し概ね達成されている。学生数増加に向けた施策については、学部と連携して引き続き検討してほしい。